

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業		事務事業名 ヘルスパイオニアタウン事業（インフルエンザ予防接種助成金）	
区分	番号	名称	
章	1	やさしさと共生するまち	
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる	
施策	2	保健予防活動の充実	
小分類	1	成人及び老人保健の充実	
主要な施策	1	各種検診の充実と受診率の向上	
事務事業番号	007	事務事業コード	12211007
		事業開始年度	平成 1 3 年度
		事業終了年度	平成 - 年度
会計種別	国民健康保険特別会計		予算書上の事務事業名
			インフルエンザ予防接種助成経費
部 名	保健福祉部	グループ名	国民健康保険 G
統合前または名称変更前の事業名			

事務事業の目的と成果	
目的	<p>（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> <p>高齢者等がインフルエンザに罹患するのを防ぎ、罹患しても重症化するのを防ぐ。</p>
手段 （事業の内容・活動）	<p>高齢者等のインフルエンザ予防を図るために、対象となる被保険者に対し、インフルエンザ予防接種の自己負担額を助成する。</p> <p>対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 65歳以上の登別市国民健康保険被保険者 ・ 60歳以上65歳未満の登別市国民健康保険被保険者のうち、心臓や腎臓、呼吸器、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害を有する方（障害者手帳 1 級の方）
成果	<p>（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> <p>インフルエンザの重症化を防ぐことで、医療費の削減につながる</p>
根拠法令等	<p>（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p>

指標の推移							
区分	単位	区分	22年度実績	23年度目標	24年度目標	25年度目標	26年度目標
成果指標	65歳以上の被保険者の内、5割以上の接種を目標とする。（上段は65歳以上被保険者数の約5割の人数、下段は接種者人数）	目標値	2,700	2,900	2,900	2,900	2,900
		実績値	3,101				
		目標値					
		実績値					

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称 北海道国民健康保険調整交付金	千円	3,052	5,042	4,900	4,900	4,900	14,700
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称 国民健康保険税	千円	4,659	5,060	4,916	4,916	4,916	14,748
	一般財源	名称	千円						0
合 計				7,711	10,102	9,816	9,816	9,816	29,448
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	27	27			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	22	22			
			合 計		49	49			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 高齢者がインフルエンザに罹患すると、重症化し、生命の危機にもかかわるため、予防接種は妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 予防接種を実施することで、インフルエンザへの罹患を防ぎ、仮に罹患したとしても重症化するのを防いでいる。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 広報で周知していく。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 本事業は、助成金に係る事務事業であるため、これ以上削減するとなると、対象年齢の引き上げあるいは自己負担額を増額させるなどの対応となるため、事業目的を達成できなくなると判断する。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	今後も必要な事業であり、現状の制度で維持していくと判断する。
----	----------------------	--------------------------------

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）